

2018 年 6 月 7 日

テスト マーケティング株式会社

国内医療用ジェネリック医薬品 50 領域の市場動向と将来予測を分析。2017 年における 50 領域のジェネリック医薬品市場規模は 1 兆 1,189 億円(前年比 12.5%増)となり 2 桁成長を達成し、国内医療用医薬品 50 領域の販売高 8 兆 1,819 億円の 13.7%を占める。2022 年における調査対象 50 領域のジェネリック医薬品の市場予測は 1 兆 3,719 億円(2017 年比 22.6%増) と成長予測

ージェネリック医薬品市場は高血圧症治療剤が 1,591 億円でトップとなり高血圧症治療剤市場全体の 26.5%をジェネリック医薬品が占める。次いで潰瘍治療剤市場の 1,030 億円で潰瘍治療剤市場全体の 31.7%をジェネリック医薬品が占めるー

テスト マーケティング株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：金塚進）は「ジェネリック医薬品 2 0 1 8」において国内医療用ジェネリック医薬品市場 50 領域の販売動向と将来予測及びジェネリック医薬品販売企業 19 社の営業体制や販売動向について調査を行い、資料にまとめました。

【調査概要】

1. 調査対象期間：2018 年 4 月～5 月
2. 調査対象領域(市場編)：50 領域（4 頁参照）
3. 企業ケーススタディ：19 社(G E 専業・兼業、新薬企業子会社)
4. 出荷ベースによる販売高(金額ベース)にて算出
5. 1～12 月の年次ベースでの実績

【調査結果サマリー】

- 2017 年における国内医療用ジェネリック医薬品総販売高は 1 兆 1,260 億円（対前年比 111.1%）、調査対象 50 領域における国内医療用ジェネリック医薬品総販売高は 1 兆 1,189 億円（対前年比 112.5%）となり、前年実績から二桁成長

2017年のジェネリック医薬品市場は2016年に続いての二桁成長となりました。高血圧症治療剤の「ミカルデイス」、「オルメテック」や脂質異常症治療剤「 Crestol」をはじめとした大型品のジェネリック医薬品が市場へ参入し、特に高血圧症治療剤はオーソライズドジェネリックが5製品も参入するなど急激にジェネリック医薬品の浸透が進んでいます。また、脂質異常症治療剤「 Crestol」のオーソライズドジェネリックは2017年9月の発売から3か月で52億円、12月に追補収載された「 Crestol」のその他の23品目のジェネリック医薬品は1ヵ月間で55億円を売り上げており、市場全体の実績増加に寄与しました。ジェネリック医薬品市場実績全体に占めるシェアは、高血圧症治療剤1,591億円(14.1%)、潰瘍治療剤1,030億円(9.1%)、脂質異常症治療剤861億円(7.6%)が上位の領域となっています。これらのシェアの高い領域は、先発品市場が大きく、オーソライズドジェネリックの発売も行われていることから今後もジェネリック医薬品への切替えが進むことによって、実績拡大が見込まれます。

- 2017年のオーソライズドジェネリックの発売品目数は12品目であり、12品目の初年度の実績は210億円。また、2017年のオーソライズドジェネリック合計実績は29品目の716億円となる。バイオシミラー製剤は2017年に2品目が発売されたが、実績は僅少にとどまる

2017年にオーソライズドジェネリックが発売となったのは、高血圧症治療剤で5剤、抗癌剤で2剤など、7領域12剤でした。2017年発売のオーソライズドジェネリックで販売高が高かったのは、他のジェネリック医薬品より先行発売された脂質異常症治療剤「 Crestol」のオーソライズドジェネリック「ロスバスタチン「DSEP」」で52億円(ジェネリック医薬品成分金額ベースシェア48.6%)、高血圧症治療剤の「オルメテック」のオーソライズドジェネリック「オルメサルタン「DESP」」は40億円(ジェネリック医薬品成分金額ベースシェア88.9%)でした。また、他のジェネリック医薬品と同時発売であったものの、先発品を発売する持田製薬の子会社である持田製薬販売より発売となった「ジェノゲスト「モチダ」」の実績が25億円(ジェネリック医薬品成分金額ベースシェア69.4%)となりました。

一方、バイオシミラー製剤はリウマチ治療剤「レミケード」のバイオシミラー製剤として「インフリキシマブB S点滴静注「あゆみ」」、「インフリキシマブB S点滴静注「日医工」」の2製剤が2017年11月に発売となりましたが、初年度の販売実績は僅少となっています。

- 領域別における 2016 年からの増加率では、子宮内膜症・子宮筋腫治療剤が 255.2% でトップ。血液製剤・止血剤の 166.7%、喘息・C O P D 治療剤 161.4% で続いた

2016 年から実績増加率の大きかった領域は、子宮内膜症・子宮筋腫治療剤 74 億円 (対前年比 255.2%)、血液製剤・止血剤 35 億円 (対前年比 66.7% 増)、喘息・C O P D 治療剤 418 億円 (対前年比 61.4% 増) であり、50 領域中 40 領域で実績増加となりました。子宮内膜症・子宮筋腫治療剤は 2017 年に「ディナゲスト」のオーソライズドジェネリックとジェネリック医薬品の参入、2015 年に参入した「ルナベル」のジェネリック医薬品の堅実な実績伸長などが寄与し、大きく伸長した市場となりました。血液製剤・止血剤は「トランサミン」のジェネリック医薬品であるトラネキサム酸は、シミの原因になるメラニン色素の生成を抑える作用、炎症を抑える作用があり、美白効果を期待して美容医療などで使用が増加したことによって実績増加となり、領域全体の実績拡大につながりました。喘息・C O P D 治療剤では「キプレス/シングレア」のオーソライズドジェネリックとして 2016 年 9 月に他のジェネリック医薬品より先行で発売されたキョーリンリメディオの「モンテルカスト「KM」」が 111 億円を売り上げる製品に成長したことで同領域の実績伸長に大きく寄与しました。2017 年の増加率が特に高かった上位の領域ではオーソライズドジェネリック参入による先発品からの切り替えが進んでいることが大きな要因となっています。

一方で、変形性関節症治療剤で 21 億円 (対前年比 16.0% 減)、心不全治療剤 41 億円 (対前年比 8.9% 減)、皮膚関連疾患治療剤 12 億円 (対前年比 7.7% 減) など 10 領域はジェネリック医薬品市場の実績が減少となりました。マイナス成長となった領域では、ジェネリック医薬品の新規参入もなく、発売から年数の経過した製品が多くなっていることが要因となっています。

- 調査対象 19 社(ケーススタディ掲載)におけるジェネリック医薬品販売高トップは日医工で 1,393 億円。沢井製薬 1,250 億円、東和薬品 917 億円で続いた

2017 年におけるジェネリック医薬品販売高を企業別に集計した結果、調査対象 19 社において最も販売高の大きい企業は日医工でした。日医工のトップブランドである「プラビックス」のオーソライズドジェネリック「クロピドグレル「S A N I K」」が 100 億円を超える実績となるなど同剤の実績伸長が寄与し、医療用医薬品全体としては前年比 2.4% 増となりました。続く沢井製薬はオーソライズドジェネリックの発売がないものの、大型先発品のジェネリック医薬品である「ランソプラゾール「サワイ」」など 60 億円以上の実績を持つ上位ブランドが安定した実績で推移した

ことで、同社の医療用医薬品全体の実績は前年比 6.1%増と実績伸長となりました。
3 位となった東和薬品は 2008 年に発売されて以降トップブランドを維持している
「アムロジピン「トール」」や「ピタバスタチンCa「トール」」など上位ブランド
の実績伸長によって医薬品販売高は前年比 8.3%増の伸長となりました。

【調査対象 50 領域一覧】

高血圧症治療剤	抗癌剤	てんかん治療剤	消化器・腸疾患関連治療剤	頻尿・尿失禁治療剤
不整脈治療剤	癌治療補助剤	片頭痛治療剤	脾疾患治療剤	子宮内膜症・子宮筋腫治療剤
狭心症治療剤	細菌感染症治療剤	認知症治療剤	喘息・COPD 治療剤	産科・婦人科関連疾患治療剤
心不全治療剤	ウイルス感染症治療剤	脳血管障害治療剤	感冒関連治療剤	麻酔剤
血栓・塞栓治療剤	肝炎治療剤	神経変性疾患治療剤	抗アレルギー剤	筋弛緩剤
肺高血圧症治療剤	真菌感染症治療剤	消炎鎮痛剤	アトピー性皮膚炎治療剤	免疫抑制剤
脂質異常症治療剤	うつ病治療剤	リウマチ治療剤	皮膚関連疾患治療剤	眼科用剤
糖尿病治療剤	睡眠障害・不安症治療剤	変形性関節症治療剤	腎不全関連用剤	輸液・栄養剤・ビタミン剤
痛風・高尿酸血症治療剤	統合失調症治療剤	骨粗鬆症治療剤	血液製剤・止血剤	造影剤
低身長症治療剤	パーキンソン病治療剤	潰瘍治療剤	前立腺肥大症治療剤	生活改善剤

【調査対象 19 企業一覧(ケーススタディ掲載)】

沢井製薬	あすか製薬	小林化工	富士フイルムファーマ	エルメッドエーザイ
日医工	富士製薬工業	辰巳化学	共和薬品工業	第一三共エスファ
東和薬品	ニプロ	日東メディック	武田テバファーマ	キョーリンリメディオ
日本ケミファ	大原薬品工業	日本ジェネリック	サンド	

【資料体裁】

資料名：ジェネリック医薬品 2018

発刊日：2018 年 6 月 7 日

体裁：A4 判 442 頁

定価：300,000 円（税別）

【問い合わせ先】

テストマーケティング株式会社

所在地：東京都中央区日本橋大伝馬町 2-14 パールビル 4 階

TEL:03-5642-3768 FAX:03-5642-3778

担当者：メディカルディビジョン 中川 雅之